

塩田体験で熱中症対策を行いました。（2025年度）

暮らしおの協力団体である「西尾市塩田体験館」（愛知県西尾市）には、復元塩田があり、毎年夏休みの時期には、「夏休み塩田体験」が実施されています。

今年の夏は例年にも増して猛暑日続きでしたが、熱中症対策を行いながら、復元塩田での塩づくり体験が行われました。

本格的な塩田体験ができる施設は全国的にも珍しいとあって、今年も愛知県外からの参加者も含め、夏休み期間中の計9回（1回は雨天のため中止）の体験に計343人の参加がありました。

体験の際には、受付で暮らしおの塩タブレットとうちわを配布し、熱中症予防を呼び掛けるとともに、作業の合間にはミストを取り付けた日よけ付きの休憩スペースでひと休みしながら体験を進めていただきました。

炎天下での塩田作業ですが、大人も子供も昔の塩づくりの苦労を味わうとともに、製塩方法の工夫を体感することができ、満足していただいたようです。お帰りの際には焼きたての塩をお持ち帰りいただきました。



塩田体験で熱中症対策を行いました。（2024年度）

暮らしおの協力団体である「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」（愛知県西尾市）では、今年も、恒例の「夏休み塩田体験」が実施されました。

「夏休み塩田体験」は、同館の復元塩田で、塩田製塩時代のやり方でかん水（濃い塩水）をつくるもので、そのあと、つくったかん水を煮つめて塩の結晶をつくる「塩焼き体験」もできます。塩田体験は、砂に撒いた海水を乾燥させるため、暑い夏が最盛期です。9時30分から15時までかけて、塩田でのひと通りの作業を体験することで、昔の塩づくりの苦労が実感できます。

昨年以上に暑かった今年の夏も、館内には暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して熱中症への注意を呼びかけました。また、塩田体験は、砂集めなどの作業ごとに、こまめに休憩をとりながら行いました。暮らしおの塩タブレットやウチワも活用いただきました。

全11回が予定されていた今夏の「夏休み塩田体験」は、ほとんどの回が定員（40名）に達するという人気で、雨天のために1回の中止はありましたが、期間合計で約400名の方に参加いただきました。そして、塩田体験の参加者以外のご来場者も含め、多くの方に、塩タブレットやウチワ等をお渡しし、熱中症対策に活用いただきました。



塩田体験で熱中症対策を行いました。（2023年度）

今年も、愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」（暮らしお協力団体）では、恒例の「夏休み塩田体験」が開催されました。

同館では、復元塩田でかん水（濃い塩水）をつくる「夏休み塩田体験」や、つくったかん水を煮つめる「塩焼き体験」ができます。塩田体験は、砂に撒いた海水を乾燥させるため、暑い夏が最盛期です。9時30分から15時までかけて、塩田でのひと通りの作業を体験することができます。

ひときわ暑かった今年の夏ですが、館内には暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して熱中症への注意を呼びかけるとともに、塩田体験では、砂集めなどの作業ごとに、こまめに休憩をとりながら行いました。また、暮らしおの塩飴やウチワも配布して活用いただきました。

全10回予定の夏休み塩田体験は、ほとんどの回が参加人数の上限（40名）に達するという人気で、雨天のために1回の中止はありましたが、期間合計で約350名の方に参加いただきました。そして、塩田体験の参加者以外のご来場者も含め、多くの方に、塩飴やウチワ等をお配りすることができました。



塩田体験で熱中症対策を行いました。（2022年度）

今年も、暮らしおの協力団体である愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」では、恒例の「夏休み塩田体験」が開催されました。

「夏休み塩田体験」では、復元塩田でかん水（濃い塩水）をつくる体験ができます。また、同館では、つくったかん水を煮つめる「塩焼き体験」もできます。このうち塩田体験は、新型コロナウイルスの影響により、昨年に引き続き、1回当たりの参加者数の上限を従来の40名から20名に縮小するなどの配慮の上で、実施されました。

塩田体験では、炎天下、塩田に海水を撒いたり、乾燥して塩分の付いた砂を集めたりといった重労働をします。このため、新型コロナウイルスだけでなく、熱中症にも注意が必要です。塩田体験館では、例年同様、館内に暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、塩田体験の参加者に塩飴やウチワを配布し、熱中症予防に役立てていただきました。

全11回の夏休み塩田体験は、ほぼすべての回が予約開始時点で定員に達するという人気で、雨天のために1回の中止はありましたが、期間合計で約200名の皆さんに参加いただき、また塩飴等をお配りすることができました。

来夏こそ、新型コロナウイルスの心配なく、思い切り塩づくりができるようになることを願います。



塩田体験で熱中症対策を行いました。（2021年度）

暮らしお（塩と暮らしを結ぶ運動）の協力団体である愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」では、例年、夏休みの時期に、復元塩田で塩づくりができる「夏休み塩田体験」が行われています。

新型コロナウイルスの影響により、2020年は「夏休み塩田体験」は中止となりましたが、2021年は、1回当たりの参加者数の上限を従来の40名から20名に縮小し、また実施内容も一部変更するなどの配慮の上で、開催されました。

塩田体験は、海水を撒いたり、乾燥して塩分の付いた砂を集めたりと重労働です。完成した塩の味に参加者の皆さんは満足そうでした。

炎天下の塩田体験では、新型コロナウイルスだけでなく、熱中症にも気をつけなくてはなりません。塩田体験館では、例年同様、暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、塩田体験の参加者に塩飴やウチワを配布し、熱中症予防に役立てていただきました。

全11回を予定してた夏休み塩田体験は、雨天等のため全9回の開催となりましたが、約180名の参加者の皆さんに塩飴等をお配りすることができました。

来夏は、新型コロナウイルスの心配なく、思い切り塩づくりができることを願います。



塩焼き体験で熱中症対策を行いました。（2020年度）

愛知県西尾市（暮らしおの協力団体です）の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」には、復元塩田があり、例年、夏休みの時期を中心に塩田体験が行われており、また塩田でつくったかん水（濃い塩水）を煮詰めて塩をつくる「塩焼き体験」が、こちらは通年で開催されています。

しかし、2020年は、新型コロナウイルスの影響により、塩田体験は中止となり、夏休み期間には塩焼き体験だけが開催されました。ソーシャルディスタンスを保つため、1回当りの定員も12名と制限しての開催となりました。

屋外での塩田体験がないとはいえ、時節柄、新型コロナウイルスだけではなく、熱中症にも気をつける必要があります。塩田体験館では、例年同様、暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、受付に塩飴を設置し、塩焼き体験の参加者や、その他の来場者にお持ちいただきました。

塩田体験がなく、また夏休みが例年より短かったこともあり、夏場の来場者は例年に比べて少数でしたが、約200名の方に塩飴をお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



塩づくり体験でも周知活動や熱中症対策を行っています。（2019年度）

塩と暮らしを結ぶ運動では、愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」において、昨年度に引き続き、運動の周知と、熱中症対策を実施しています。

愛知県西尾市は、塩と暮らしを結ぶ運動の協力団体です。復元塩田のある塩田体験館では、今年も、夏休み期間の水・日曜（お盆の時期を除く）に、「夏休み塩田体験」が行われました。

今年の「夏休み塩田体験」（全10回、各回定員40名）は、全ての回がほぼ満員という人気振りでした。その第1回目は、7月21日（日）に行われました。

当日は、曇り空でしたが、温度、湿度ともに高く、熱中症に注意が必要な天候でした。そんな中で実際の塩田作業を体験していただいた皆さんには、熱中症にならないよう、適宜の休憩、水分補給をしていただくとともに、塩と暮らしを結ぶ運動の塩飴も活用いただきました。

暑い中、塩田作業を体験した皆さんは、昔の人たちの技術に関心するとともに、塩づくりの大変さを実感しておられました。受付では、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』もお配りし、昔は大変な思いをしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしと深く関わっていることをお伝えしました。



塩づくり体験でも周知活動を行っています。（2018年度）

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の協力団体である愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩（あいばじお）の里」は、江戸時代から三河湾の製塩業の中心であった吉良地域にあり、復元塩田で、昔ながらの塩づくりを体験することができる施設です。

塩づくり体験のメニューには、塩田でかん水（濃い塩水）をつくり、これを煮つめて塩の結晶をつくるまでの一連の行程を行う「塩田体験」と、濃い塩水を煮つめるところだけを行う「塩焼き体験」の2種類があります。このうち、より作業が大変な「塩田体験」は事前申込み制で、5・6月と9・10月に月例で開催されるほか、7・8月には、日曜と水曜日（お盆を除く）に、「夏休み塩田体験」として開催されています。

今年の「夏休み塩田体験」は、7月22日（日）から8月26日（日）まで全9回が実施されますが、申込受付を開始してすぐに、全ての回の定員（40名）が予約で埋まるほどの人気です。

「塩田体験」では、塩田に砂を撒き、海水を撒いて乾燥させ、塩分が付いた砂を集めて、海水をかけてかん水を採ります。昔の塩づくりの仕組みや、それがいかに大変なものだったのかが分かります。

参加者の皆さんには、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』をお配りして、昔は大変な苦勞をしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしに深く関わっていることをお伝えしています。また、特に夏場の塩田作業は熱中症のおそれもあるので、施設内に熱中症対策のポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、運動の塩飴もお配りしています。

